

絵本・隣人（隣のおばあさん）

佐藤紀子（張 怡申）

2012年1月に、私は町田中央図書館展示コーナーで「日本での生活」をテーマにし、絵の展示をしました。

展示場には、ショーケースがあります。展示日の三日前に、ショーケースに「隣のおばあさん」の話を入れることにしました。おばあさんの話を入れなければならないと思ったからです。

日本に来て二年目頃、庭の木が隣のおばあさんの庭に伸びていたところ、おばあさんに「この木は元気ですね」と言われました。私は木の事に気づき、木を剪定しました。それからおばあさんとの花情報交換が始まりました。

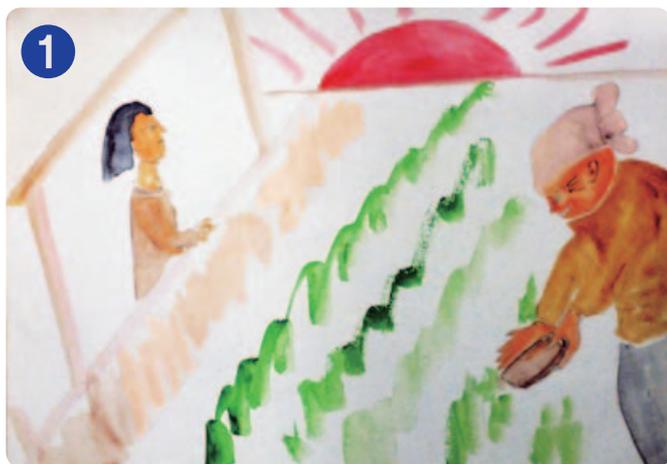
淡々とした隣人同士の付き合いが何年か続いているから、私は急に腎不全に罹りました。私は家に居る時間が多くなりました。毎朝、窓から隣家のおばあさんが庭で野菜に水をかける姿を見ます。それが済むとおばあさんが度々私の家の窓辺にやって来て、私を必死に励ましてくれました。時折美味しい物もよく頂きました。

ついに、私は救急車に運ばれて入院しました。ある日、病室におばあさんが見舞いに来ました。「紀子さんの顔が見えなかったから、紀子さんの親戚に聞いた」とおばあさんが言いました。私はおばあさんから筆ペンで「お見舞い」と、綺麗に書いてある封筒を頂きました。

それから、私は三年間入退院生活を繰り返しました。三年間の間、私は何度も「もう生きる道がない」と口に出したことがあります。それを聞いて私の娘は「お母さん考えて、私たちが知らない国日本で、もし、隣のおばあさんが居なかったら私たちどうなった?」と言われました。

娘に言われた通り、私は今でもおばあさんの事を考えております。おばあさんが私に感動を残してくれました。おばあさんの暖かい気持ちを、展示場を通してたくさんの人に伝えようと決意しました。

「隣人」は私の初めての絵本です。未熟ですが「隣人」以来、絵本創作を続けています。



早上，从我家能看到邻居的老奶奶给种在院子里的茄子，西红柿苗浇水，上肥。

邻居的老奶奶每天都比太阳起得早。

私の家から隣のおばあさんが早朝、お庭に植えられたナス、トマトの苗に肥料を撒いたり、水をかけたりする姿が見えます。隣のおばあさんは毎日太陽より早起きです。



茄子喝着甜甜的水，吃着足足的肥，长得肥肥大。

ナスはおいしい。水を飲んで、栄養たっぷりの肥料を食って、伸びていく。



西红柿越长越可爱。

トマトも可愛らしく成長していきます。



我去中国工作时，老奶奶为我饯行。

私が中国勤務に行くときには、お饯別も頂きました。



我从窗口收到了收获物。多好吃。

窓から収穫物を頂きました。「おいしいだよ！」



我在中国工作的学校里讲我和老奶奶的故事。

勤務先の学校で、隣のおばあさんとのエピソードを話しました。



我和老奶奶成了好朋友。我们互相讲起了对人难言的心事。

仲良しになり、人に言えないような話も、お互いにしゃべりました。

我回到日本时，老奶奶却去了天国。我想，“在这个生疏的国家里，如果没有老奶奶的照顾……”一想到这些，我就想流泪。

我把从中国带来的礼物，摆在了佛坛上。



日本へ帰ってきたら、おばあさんはもう天国に行ってしまいました。

知らない国での私の生活に、おばあさんからのお世話が無かったらと思うと涙が出そうになります。

おばあさんに持ってきた中国のお土産は、仏壇に供えました。